令和５年生駒市教育委員会

第７回定例会　議案

令和５年７月２４日

生 駒 市 教 育 委 員 会

令和5年生駒市教育委員会（第7回）定例会議案目録

議案番号	議　　案　　名	項
報告第9号	令和5年生駒市議会第3回（6月）定例会提出議案の結果について	1
報告第10号	令和5年度幼稚園・保育園・こども園訪問の結果について	2
報告第11号	令和5年度小学校・中学校訪問の結果について	7
議案第23号	令和5年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について	28

報告第９号

令和５年生駒市議会第３回（６月）定例会提出議案の結果について

令和５年生駒市議会第３回（６月）定例会提出議案の結果について、生駒市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（昭和６０年４月生駒市教育委員会規則第６号）第６条第１号の規定により、次のとおり報告する。

令和５年７月２４日提出

生駒市教育委員会
教育長　原　井　葉　子

【提出議案】

・令和５年度生駒市一般会計補正予算（第４回）

・篤志寄附基金条例の一部を改正する条例

【審議経過】

令和５年６月８日　　開会
令和５年６月１９日　予算委員会（厚生文教分科会）
令和５年６月２２日　予算委員会
令和５年６月２７日　再開

【結果】

原案のとおり可決

報告第１０号

令和５年度幼稚園・保育園・こども園訪問の結果について

令和５年度幼稚園・保育園・こども園訪問の結果について、生駒市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（昭和６０年４月生駒市教育委員会規則第６号）第６条第５号の規定により、次のとおり報告する。

令和５年７月２４日提出

生駒市教育委員会

教育長　原　井　葉　子

＜令和５年度定期幼稚園・保育園・こども園訪問報告＞

１　目的

教育長、教育委員、教育委員会事務局職員が幼稚園・保育園・こども園を訪問することにより、教育・保育課程の運用、保育内容、安全教育等、保育全般にわたり、幼稚園・保育園・こども園の実態に即して、指導助言を行い、各園が主体的に、より充実した教育・保育活動や特色ある園運営が推進できるよう支援する。

２　訪問日時及び訪問者

幼稚園・保育園名	訪問日時	訪問者（事務局職員除く）
桜ヶ丘幼稚園	5/23　9:00～	吉尾委員･原井教育長・鍬田部長・松田次長 喜多指導主事・湯川指導主事
中保育園	5/23　10:30～	原井教育長・鍬田部長・松田次長・喜多指導主事 湯川指導主事
あすか野幼稚園	5/30　9:00～	伊藤委員･中川委員･吉尾委員･原井教育長･鍬田部長 松田次長・喜多指導主事・湯川指導主事
なばた幼稚園	5/31　9:00～	伊藤委員･中川委員･吉尾委員･原井教育長･鍬田部長 松田次長・喜多指導主事・湯川指導主事
認定こども園 生駒幼稚園	5/31　10:30～	伊藤委員･中川委員・吉尾委員･原井教育長･鍬田部長 松田次長・喜多指導主事・湯川指導主事
俵口幼稚園	6/29　9:00～	原井教育長・鍬田部長・松田次長・ 大畑幼保こども園課長・喜多指導主事・湯川指導主事
小平尾保育園	6/29　10:30～	原井教育長・鍬田部長・松田次長・ 大畑幼保こども園課長・喜多指導主事・湯川指導主事
壱分幼稚園	7/5　9:00～	伊藤委員･中川委員･吉尾委員･原井教育長・鍬田部長 松田次長・大畑幼保こども園課長・喜多指導主事 湯川指導主事
生駒台幼稚園	7/10　9:00～	中川委員･吉尾委員･原井教育長･鍬田部長 松田次長・花山教育指導課長・日高教育政策室長 喜多指導主事・湯川指導主事
南こども園	7/10　10:30～	中川委員･吉尾委員･原井教育長・鍬田部長 松田次長・花山教育指導課長・日高教育政策室長 喜多指導主事・湯川指導主事
ひがし保育園	7/11　9:00～	吉尾委員･原井教育長･鍬田部長・松田次長 喜多指導主事

３　園からの説明の概要

<幼稚園>

桜ヶ丘幼稚園	・全園児徒歩通園である利点を生かし、写真掲示や保護者とのさくらっこトーク、スライドショーを用いて、日々の保育活動を始め体力づくりや食育活動を柱とした教育活動の見える化に努めている。 ・「小規模園だからこそできる遊びの展開」を園内研究会のテーマに掲げ、前向きに取り組んでいきたい。 ・小学校の職員と交流し、それぞれの生活を知ることから滑らかな接続とカリキュラム作成につなげていきたい。 ・未就園の集いは、園生活をイメージできる内容を工夫している。
あすか野幼稚園	・園児の約７割が通園バスを利用しているため、保護者ボランティア参加の機会を多く取り入れ、保育の見える化に努めている。 ・自園作成の遊びや散歩マップを活用し、活動の充実を図っている。 ・地域とのつながりが深く、防犯防災会との避難練習や見守りボランティア、手話、読み聞かせ等地域と協働しながら、子どもたちの安全な環境づくりと豊かな体験活動に取り組んでいる。 ・未就園の集いの場に施設を利用したり、保育室開放を行ったりして園の様子を知っていただく機会を設けている。また、自治会の回覧を行い、園の取組を地域に情報発信している。
なばた幼稚園	・昨年度発足の「えん・くろす」を通して地域、保護者の力を活用し教育活動の充実を図っている。今年度からコミュニティスクールを実施。教育方針や課題について共有し、園運営に反映していきたい。 ・日々の遊びの取り組みを大切にすると共に、少しでも大きな集団で活動できるよう、異年齢交流の充実を図っている。 ・ツイッター、ホームページ、地域の回覧板、学年だよりの発行を通じて園の魅力を幅広く情報発信している。 ・未就園の集いは、例年より１ケ月早く開催。内容を工夫している。
認定こども園 生駒幼稚園	・１号認定児・２号認定児が在籍するこども園として、教育と養護の役割を果たせるよう再認識しながら園運営を行っていきたい。複数担任制のため職員数が多く、情報共有の方法が課題である。 ・地域に開かれた園づくりを目指し、自治会だよりを活用。在園児卒園児保護者（おやじの会）地域の方と協働して子どもたちを育てていきたい。 ・預かり保育の利用者増加に伴い、職員シフトの対応を行っている。 ・スムーズな就学や地域愛を育むため保育園・小学校・中学校との交流やつながりを深められるよう計画をしている。接続カリキュラムについては、見直しを図りながら活用していきたい。

俵口幼稚園	・今年度からコミュニティスクールに移行し、昨年度の「えん・くろす」の活動を継続しながら地域や保護者とともに、協働して子どもたちの豊かな体験活動が積極的に進められている。自治会回覧では、豊かな自然環境を活かした園の取組や小規模園のよさを知らせるよう努めている。 ・新２号認定児数が園児の２割を占める状況もあり、預かり保育利用が増加している。引き続き子育て支援の役割を果たしていきたい。 ・６月から週１回の保育室開放「きらきらるーむ」を行い、未就園児親子が地域で交流できる場にしていきたい。
壱分幼稚園	・自分の命を大切にする、大切にされることを実感することで友達を大切にする気持ちが芽生えていく。日々の保育の中で自己肯定感を高めていけるよう心がけている。 ・月１回のあいさつ運動に園児も参加している。地域の保育園やいこま福祉会、小学校との交流を引き続き行っていく。また、保護者や老人会、地域力を活かしながら子どもたちを共に育てていきたい。 ・未就園児対象に「いっちゃんのへや」として保育室開放を始めた。 ・自園の取組を保護者に伝えることを第１歩とし、課と協力してこども園化を進めていきたい。
生駒台幼稚園	・園の教育方針、日々の保育について保護者に丁寧に伝える大切さを感じると共に、発信方法を工夫している。 ・支援を必要とする子どもたちへの支援方法について、外部講師を招いて職員研修を行い、共有することでよりよい支援につなげていきたい。 ・登降園の自転車利用が多く、安全な運転、乗車の仕方について保護者向け講習会を計画している。 ・６月、９月に未就園児保護者や地域の方に向け、園見学会を計画している。
南こども園	・幼稚園・保育園それぞれの特性を活かして０歳児から５歳児まで一貫した幼児教育・保育を行い８年目。幼保が同じ場所にあることで、子ども達が一緒に同じ地域の学校に進めるのが利点。 ・子どもが地域愛をもてるようにと、地域との協働・交流を大切にした行事や取組を行っている。コロナ感染症の対応も変り、地域の方による礼法等再開している。 ・少人数での、教育と保育の改善・方向性についての研修や、職員一人一人が講師となり得意分野を他の職員にも広げていく場を設ける等、独自の研修体制を確立し、研修を通し人材育成、特にミドルリーダーの育成に力を入れている。

<保育園>

中保育園	・昨年度は、奈良県市町村保育指導主事連絡協議会の公開保育と奈良県就学前教育実践集への事例報告を通し、“一人一人の子どもが主体的に遊び、生活するための環境づくり”に関する学びが一層深まった。また、大規模園ということで家庭的な保育環境に近づけるように、保育担当制についても学び、推進している。 ・コロナ感染症の対応が変り、保幼小連携・地域との交流において、充実した活動ができるよう計画を立て実施している。自治会や東寿会（老人会）の方との公園清掃や栽培活動を行っている。
ひがし保育園	・５歳児を中心に SDGs を意識した取組を展開している。牛乳パックなどを利用したリサイクルおもちゃ作りや自然物を使った染物遊びなど、一年を通じ子どもの興味･関心に合わせて、楽しみながら遊びを SDGs につなげている。 ・図書会館に近いという立地を活かし、お話会への参加や園児が定期的に本を借りに行く活動を行っている。また、園だよりに読書について記載するコーナーを設ける等、読書活動の推進に力を入れている。 ・大人数の職員集団の中で、得意分野での活躍の場や苦手分野の克服に前向きに取り組める場として、職員が自主的に計画・進行を行うチーム活動を行っている。
小平尾保育園	・同和保育園として地域の方の願いにより開園して５０年目の節目となる。以前の園の様子を知る保育士も少なくなってきている中、思いをつないでいく為、元同和推進保育士の話を聞く機会を設ける等の取組を行っている。 ・今年度も年齢別保育を行っているが、生活面・遊びの面で異年齢の交流を多く取り入れている。 ・地域に根ざした保育園を目指し、地域の方との連携に力を入れている。人権文化センターや児童館ともコンサートの開催や避難訓練に参加していただく等交流を深めている。

報告第１１号

令和５年度小学校・中学校訪問の結果について

令和５年度小学校・中学校訪問の結果について、生駒市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（昭和６０年４月生駒市教育委員会規則第６号）第６条第５号の規定により、次のとおり報告する。

令和５年７月２４日提出

生駒市教育委員会

教育長　原　井　葉　子

＜令和５年度定期学校訪問報告＞

1　目的

教育委員、教育委員会事務局が学校訪問することにより、学校経営、教育課程の運用、学習指導、生徒指導、安全教育、学校評価等、学校教育全般にわたり、学校の実態に即して、指導助言や研究協議を行い、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援する。また、適切な人事配置ができるよう、教職員の人事に関する状況を把握する。

2　小学校

①訪問日時並びに訪問者

学校名	訪問	訪　問　者
生駒小学校	7/12	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、神澤委員、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、花山課長、松田主幹、小泉指導主事、金指導主事
生駒南小学校	5/11	若狭管理主事、原井教育長、吉尾委員、伊藤委員、鍬田部長、中田課長補佐、日高室長、金指導主事、野村指導主事
生駒北小学校	5/12	若狭管理主事、原井教育長、吉尾委員、伊藤委員、鍬田部長、花山課長、小泉指導主事、野村指導主事
生駒台小学校	6/16	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、中田課長補佐、日高室長、松田主幹、野村指導主事、池下指導主事
生駒東小学校	5/24	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、中田課長補佐、日高室長、松田主幹、小泉指導主事、池下指導主事
真弓小学校	6/30	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、伊藤委員、中川委員、神澤委員、山本課長、花山課長、日高室長、金指導主事、池下指導主事
俵口小学校	6/1	原井教育長、神澤委員、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、古島委員、飯島委員、鍬田部長、山本課長、花山課長、中田課長補佐、松田主幹、金指導主事、池下指導主事
鹿ノ台小学校	5/25	若狭管理主事、原井教育長、飯島委員、神澤委員、伊藤委員、古島委員、中川委員、吉尾委員、鍬田部長、花山課長、中田課長補佐、野村指導主事、池下指導主事
桜ヶ丘小学校	6/28	若狭管理主事、原井教育長、神澤委員、伊藤委員、中川委員、鍬田部長、中田課長補佐、日高室長、野村指導主事、池下指導主事
あすか野小学校	6/28	若狭管理主事、原井教育長、神澤委員、伊藤委員、中川委員、鍬田部長、中田課長補佐、日高室長、野村指導主事、池下指導主事
壱分小学校	5/29	若狭管理主事、原井教育長、飯島委員、伊藤委員、中川委員、鍬田部長、花山課長、日高室長、三室主幹、野村指導主事、池下指導主事
生駒南第二小学校	5/29	若狭管理主事、原井教育長、飯島委員、伊藤委員、中川委員、鍬田部長、花山課長、日高室長、三室主幹、野村指導主事、池下指導主事

②ヒアリング内容

	内　容
生駒小学校	・学校評価にESDの取り組みを追加 ・「自ら学び、ともに考え合える子」の育成に、③主体的対話的の文言 ・国語科：書くことを中心に。テーマを決めて小論文を書く取り組み ＜新たな教育＞ ・SDGｓ学習、ESD→ユネスコスクールへの登録を目指す ・SDGｓまちづくり→生駒の街を知ろう、見直そう→インタビュー ・地域盛り上げプロジェクト→３年生の児童が自ら商店に電話しポスターを掲示してもらう ・企業・団体との連携（R5はリーブ２１と連携してヘチマづくり） ・６年生で大分大学の教授による平和学習（広島に行かないでもできる平和学習） ・修学旅行で島の学校と交流（統廃合の危機を乗り越え、住民子どもで地域活性化に取り組んでいる。児童による洞窟案内を生小の児童も体験）→自らの街を見直す ・総合学習の見直し　いこマイタウンプロジェクト（SDGｓと関連付けて体系的に整理）先進地視察（福岡県大牟田市）を校長、職員と市教委で実施。８月に横浜の小学校も視察予定。 ＜地域学校協働活動と学校運営協議会＞ ・事務局よりあいさつ運動　→　6年生ののぼり旗のデザイン作成 ・親子ダンスの企画　→　来年度のお祭り開催の計画 ・各チームに複数のコーディネーターを登録してもらい活動 ・ボランティアさんありがとうの会 ・放課後こども教室　1-3年　68名　今年度21回の開催予定 ・保幼小連携　今年度5年生との給食交流も復活予定　職員による保育参観 ＜こどもの居場所づくり＞ ・オンライン授業 ・会議室への登校児童　スクールサポートスタッフによる対応 ・関係期間との連絡 ・通級担当との児童の見取り その他 ・教室の不足　150周年記念授業

生駒南小学校	・来年度150周年の式典を予定している。 ・全学年２クラス特別支援６クラス、全児童数は３７５名。 ・不登校児童や特別支援学級児童が多い。 ・配慮を要する児童・家庭への支援を関係機関（サポートセンター・放課後デイサービスなど）と連携して行っている。 ・学年３人で学年全体を見ていく。学年→低中高→全体という組織で対応することを心がけている。 ・いじめ、事故などを全体で共有が目標。保護者からの連絡を記録し緊急時の問題解決に活かす。 ・教員の男女比や年齢比もバランスが良い。 ・定数内講師が多く、今後教諭の数も増やしていってもらいたい。 ・小中で連携し、目指す学校像を同じにするなど、小学校と中学校で連続した学びになるようにしていきたい。 ・ICTをどのように活用して効果的な学びになるかを研究課題としている。 ・のびのびほっとルーム・通級指導・就学援助・要対協への対応に力を入れていきたい。 ・デジタルドリルの効果的な活用やデジタル指導書をほとんど導入して ・教科担任制の加配も合わせて専科３名・少人数１名で担任の負担軽減・教材研究の時間を取れるよう配慮し超過勤務を減らしていく。 ・ボランティア　サマースクールやウィンタースクール、授業補助だけでなく、空いた時間に参加してくれている方もいる。地域清掃に小６が今年度新しく参加する予定。
生駒北小学校	・地域学校協働本部の立ち上げを地域コーディネーターと相談をして進めていく。 ・特別支援学級児童へのこまやかな支援・指導体制の確立と指導内容の充実を行う。 ・小規模校のため教員一人あたりの校務分掌の負担が大きい。職員の超過勤務解消へ向けて、意識改革を図る。 ・小中一貫校として、9 年間を見通した取り組みを行っている。中学校教員が小学校へ乗り入れ授業、小中合同体制による生徒指導・情報の共有を行っている。 ・「茶筅の里」としての地域性を生かし、作法体験・茶道体験の系統的な学習の充実を行っている。 ・教員が意欲をもって働ける環境づくり、授業交流や研修を行い、教員の授業力の工場を目指す。 ・小規模校の特性を生かし、全教職員が児童とつながり、どの児童でも対応できるような関係性を築くこと目指している。

生駒台小学校	・支援学級が１０クラスある。特別支援員や学びのサポーターを活用しながら、みんなで子どもを見ていく体制を考えている。 ・学校を良くする意見をたくさんいただくので、学校としても検討を行っている。 ・長時間勤務を解消するために、職員朝礼を週２回にしている。細かい連絡事項は校務支援システムを活用している。 ・職員の入れ替わりがたくさんあったので、運営上苦労している。新卒が多く、若手の育成も課題。 ・昨年度の学校評価を参考にしながら学校運営を行っている。 ・「歩いていこう自分から」という校歌の歌詞、自主性を大切にしている。 ・施設の老朽化が進んでいるので、今後改修等の検討を行っていきたい。 ・学校経営方針を学級経営や学校行事等に活用をしている。 ・子どもたちの自己肯定感を高めたい。 ・わかりやすい授業を大切にしている。 ・挨拶を大切にしている。 ・コミュニティスクールを確立し、地域の方と協働して進めていきたい。昨年はサマースクールや野菜作り、グランドゴルフなどで地域の方に来ていただいている。放課後子ども教室を子どもたちの居場所つくりとして、今年度から進めている。 ・子どもが安心安全な学校生活を送れるように、見守り等を含めて考えていきたい。 ・学校に行くことが楽しみになるような学校にしていきたい。 ・国語科を中心に研究を進めている。昨年度は「話し合い活動」を中心とした活動を行っていたが話し合い活動のスキルをつけることに注目をしていたが、今年度は、話し合い活動を活用し深い学びができるように研修を行っている。 ・保幼小連携を復活させて進めていきたい。どのような子どもたちを育てたいかを共通認識する必要がある。 ・教室に入りにくい児童のために、学校独自に適応指導教室を設置を行った。人員配置が課題となっている。のびのびほっとルームとの連携。 ・全職員がすべての子どもたちを大切にし対応している。 ・子どもの課題にするだけでなく、良さ、個性を伸ばしていく教育を進めていきたい。 ・組織としての在り方と協働（情報共有、共通理解、報告・連絡・相談）担任が学年主任に、そこから生徒指導主任、教頭、校長と組織的に対応していく。 ・子どもたちを向き合う時間を確保しながら、働き方改革を進めていきたい。 ・働き方改革を進めていきたい。

生駒東小学校	・困り感を感じている児童へどのようにアプローチしていくか。不登校、支援を必要としている児童、生徒指導対応など。文字が苦手な子に対して、どのように対応できるか。文字を拡大することで見やすくできている。 ・情報共有を大切にしている。コロナ禍が終わり、学年をまたいでの対応が必要になってくる機会が増加。個人の判断だけでなく、学年を超えて情報を共有していく仕組みを整えていかなければならない。 ・例年通りの提案が多いが、コロナ禍前と同じことはできない。前年度の総括が活かせていない。まずは終礼や掲示板を活用し情報を共有し、しっかりと確認することを大切にしていきたい。 ・「主体的に学び、学んだことを活用している」「伝え合うことができる力を養う」を大切に、特に国語科の授業の中で授業改善に取り組んでいる。 ・地域との連携（東小地域交流会）を進めている。組織の見直し、活動計画の作成、地域の方へのお願いと発信を行うとともに、学校も地域の方の活動を知り、職員会議で職員と共有する。学校の花の植え替えやあいさつ運動などを地域の方と一緒に行っているが、地域の方の活動がともすれば不審者扱いされてしまう危険もある。すぐーるを登録していただき、学校の様子を地域の方へも発信するようにする。 ・子どもの居場所づくりを進めている。生徒指導上の対応の必要な子たちに対し、学校の教育相談室を活用し、教室に居場所がないと感じている子どもたちの居場所として設置していく。 ・コロナ禍で教員になった先生は、家庭訪問も知らない、プール指導も知らない。校務分掌の見直し、業務量の調整を行う必要性がある。 ・定期的な確認を行い、子どもの変容を捉え、職員にブレがないように。 ・日頃からの声掛けを行い、メンタル面のカバーし、お互いに高め合う方法を確認していく。 ・目指す学校・子ども・教師の実現に向けて取り組んでいきたい。
真弓小学校	主体的な学び ・研修テーマをもとに授業改善、楽しかったと家で話せる思い出づくり、関係機関とコラボした体験学習の充実（茶道体験、給食センターによる食育、関西メタルワークへの社会見学、災害用備蓄食料の試食等）を通して、主体的・対話的で深い学びを実現しようとしている。 ・授業改善では算数を中心に研究 ・面談の中でも算数の授業を通して学ぶ力がどう伸びていったか検証するように ・ウサギの飼育等保護者ボランティアの協力も得ている。 地域と連携した協働活動 ・運営協議会を中心に自治体・民生委員・地域ボランティアによる見守り隊、PTA 役員見守り隊、生活安全部、保護者ボランティア見守り隊と連携している。 ・防犯ストラップや自主的な見守り研修、清掃活動、遠足で抜ける教室の清掃、施設の修繕などを保護者ボランティアが自主的に活動してくれている。 全ての児童の心の居場所づくり ・通級指導教室 Beeik　カウンセリングルームの設置 ・ユーティリティルーム、第２保健室の設置

俵口小学校	・学校教育目標「共に育つ～考えをみがく　心をみがく　仲間とみがく～」の達成に向けて取組を行っている。 ・自己肯定感の向上、基礎・基本的な内容の確実な定着などの前年度の課題解決に向けた重点取組と達成目標を掲げている。 ・各学級のクラスルームに管理職が教師役で加わり、各学級での ICT の取組を把握。連絡帳や下校時の注意喚起の動画の掲載、自主学習に活用できる教材などをクラスルームに掲載したり、ロイロノートを用いて図工の作品の鑑賞をしたり、Google フォームを使って振り返りなどを行ったりしている。また委員会活動などでも活用されている。 ・提示された情報の共有、知識やスキルの獲得、伝えたいことの表現、最適解を考える、最適解をともに考え合うことが ICT 機器の活用によって可能となっている。 ・休み時間の図書室の利用、学級での係活動の充実も進めている。 ・地域と連携を図る中で、子どもたちが地域の方々に挨拶するようになった。 ・学校運営協議会と地域学校協働本部を地域との協働の中心としている。 ・毎週水曜日の下校時に地域の方が見守り活動を行っている。 ・放課後子ども教室は年間 25 回の実施の予定。 ・長期欠席児童が９名、欠席の多かった児童やのびのびほっとルームで過ごす児童もいた。要対協に報告している児童も少なくはない。子どもたちの状況を把握し職員間での情報共有、関係機関との連携、オンラインの活用や電話連絡、家庭訪問など家庭とのつながりも大切にしたい。 ・毎月、生徒指導に関する情報共有の場を設けている。 ・縦割り活動の充実、金管バンドの取組なども進めている。

鹿ノ台小学校	・「学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましくいくる子どもを育てる」を学校教育目標にしている。 ・児童の規範意識の向上と主体的・対話的で深い学びの推進を重点課題にしている。 ・生徒指導上の課題の増加、学級の荒れの克服のため、「善悪の判断」が身につくようにしていきたい。 ・子ども同士の情報共有・意思疎通、書く力や表現する力に課題、タブレットの活用のばらつきと不正利用などの昨年度の課題の解消に向けて取り組みたい。 ・職員の平均年齢は 44.1 歳で少し若返ったが、50 歳以上が 3 分の 1 を占め、ミドルリーダー世代（特に男性）が不足している。 ・講師の割合は 3 分の 1、30 代以上教諭に主任やコーディネーター、ベテランや力のある講師に学年主任、前年度からの持ち上がりを学年団に含める、各学年に ICT に強い教員を配置した。 ・病気特休の教員もいて、教員が不足している。 ・創立 45 年で施設の老朽化が課題である。また校庭には樹木が多いため落ち葉の回収や剪定や伐採を行う必要もあり、芝生化された運動場の手入れの難しさもある。（週に 1 回以上手入れしないといけない。シロツメグサやタンポポも多く、ミツバチに刺されてしまうこともある。でこぼこしている所も多いが、単純に土を入れて均すこともできない。） ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に向けて、本年度の重点に明記し、教職員で共通理解している。また研修主題を「自ら考え、学び合う児童の育成」と設定し、研究授業等に取り組んでいく。 ・生け花や水泳の見守り、門松やしめ縄づくり、七夕の笹竹づくり、お話の会による読み聞かせ、１年生の下校の見守り、花壇の整備、環境や郷土の学習、野菜づくり、昔遊び、家庭科の授業支援、琴と尺八体験、和太鼓体験、囲碁将棋体験、放課後子ども教室「にじ」など地域、保護者によるボランティア活動を進めている。 ・自校式による通級指導教室の運営、不登校児童の対応（「子どもの居場所・学び支援室」に３名が在籍、SSW との連携、オンライン授業やクラスルームを通しての連絡や家庭訪問、別室登校）、国際交流室、安心できる学校や学級づくりなどを通して、子どもたちの心の居場所づくりを進めている。

桜ヶ丘小学校	・全校生徒 659 名、海外からの編入 2 名いる。各学年 100 名おり、全学年 3 クラス以上ある。2、3 年生のクラスの人数が多く、教室も狭く感じる。 ・各学年に、不登校や、学校に来にくい子もいる。特に 4 年生に多い。 ・教職員間での連携を図るため、スプレッドシートを使用して連絡事項や各学級の生徒指導の問題を共有している。JPC の使用については情報漏洩防止の為注意している。 ・若手の職員が多く、ミドル層が少ない。学校を引っ張る、支えるベテランの先生方が必要と感じる。学年主任は今年初めての教員が 4 名いるが、若い先生にお願いしないと学校が運営できない。 ・子どもたちの様子を見ると、コミュニケーションが課題であり、自分の思いを伝えることができず、トラブルになることがある。 ・空き教室がない状態。取り出して話を聞いたり指導したりする教室が専科教室しかない。地域の方が訪問されたときも好印象をもっていただけることが多い。通級指導教室も今まで倉庫として利用していた場所を使用している。 ・体力や規範意識の向上にも取り組んでいきたい。登校中、交通量の多い道路で広がって歩くなどマナーについても指導が必要。 ・タブレットの活用率が高まっている。調べ学習などで児童自ら活用している。ただし、調べたことをまとめ、発表する形式で終わっており、深い学びには繋がっていないように感じる。今後、研修などを行いながら、深い学びに繋げられるような学習内容を考えていきたい。 ・今年度、県外教と市人教の発表に当たっているので、各学年で取組を進めている。 ・パソコンを使わないで、紙などで思考を深める方法も考えていきたい。 ・自治会の方が、ボランティアとして、登下校の安全について見守りを行っていただいている。 ・PTA が環境整備、ガーデニングクラブの活動を行っていただいている。夏休み中の図書室開放、紙芝居の上演も計画中。自治会のお祭りで体育館を開放したり、防災訓練を復活させたりなども考えている。 ・教室に入りにくい児童のために、会議室を開放している。会議室内で活動したり、教室とオンラインでつないで学習に参加したりしている。ブロックや学習教材を置いて、自由に使えるようにしている。のびのびほっとルームと連携をとりながら、紹介も行っている。 ・先生の人数が現状 2 名減となっているため、児童にも先生にも余裕がない状態が続いている。支援員さんが教室に入り教師のいない時間を作らないようにもしている。突発的なことが起こった時に自由に動ける人手が足りない状態。

あすか野小学校	・今年度教職員 54 名、35 学級、866 名。 ・一人ひとりが輝く学校を教育目標に掲げている。 ・目指す子ども像として、「認め合い支え合う子」などを掲げている。 ・研究主題：思考し、表現する子どもの育成～協働的な学びにつながるタブレットの活用を通して～ ・キャリア教育「発明王になろう！」（６年生）、SDGs に関する学習「アースボールを使って」（５年生） ・職員研修として、講師を招聘するとともに、職員間での自主研修や情報交換などを行っている。 ・教室に入りにくい児童のために、あすか野ルームの設置。のびのびほっとルームや SC との連携。 ・通級指導教室では 3 名の児童が指導を受けている。 ・地域学校協働本部の充実（環境整備チーム・見守り活動チーム・教育活動支援チーム、放課後子ども教室チームの４チームに分かれて活動してくださっている。） ・登下校見守り連絡協議会　見守りボランティアと保護者の連携強化について話し合いを持っている。 ・基本的生活習慣の定着に向けて、あいさつと正しい歩行に委員会活動と連携したり、家庭にも呼びかけながら指導している。
壱分小学校	・各学年４クラス、特支学級７クラス、計３１クラス。 ・保護者に付き添われて登校する児童もいる。 ・不登校傾向の児童への対応及び受け入れ体制の確立を目指す。 ・教職員一人ひとりの時間管理、仕事量の均一化を目指す。 ・算数科における読解力について、大学の教授に研修をしていただくなど、研究を進めている。 ・教育目標や学校運営方針の改善について、安全で安心できる学校を目指す。 ・タブレット端末を活用し、意見交流を行っている。理科専科がいるので、ICT を活用して、児童にわかりやすく教材を工夫している。 ・学校運営協議会を開催し、育成する子ども像の共有を行っている。 ・にこにこあいさつデーに運営委員会の児童が参加している。また、保護者や地域の方に来ていただいて、読み聞かせや図書室の整理を行っていただいている。 ・少人数教室のコーディネーターをおいて、教室の運営と各学年の様子に対してのアドバイスを行ってもらっている。 ・校内支援委員会を開催し、気になる学級に対しての支援を行っており、チーム壱小として学校全体で子どもたちを見るという体制を取っている。

生駒南第二小学校	・PTA 協議会、二小コミュミュニティー会議が対面で開くことができた。今後も地域・学校・保護者との連携を取っていきたい。 ・職員構成男性８名、女性が７名。40 代 50 代に若干の偏りがあるが、ある程度バランスよく配置されている。 ・1 名の児童増。昨年度とほぼ変わりない。 ・単学級ゆえ担任の業務が多いことと、相談できる相手がいないことが課題。学年チームという形で対応。校務分掌の負担も多くなってしまう。 ・研究主任を中心に熱心に取り組めている。 ・6 年間を通して、クラス替えがないため、いい面もあるが人間関係が固定化されてしまう。毎年、編成を変えた縦割り活動を行っている。 ・６年生に憧れるリーダーを合言葉にいい意味での負荷をかけている。 ・授業改善について、ゼロから研究主題の検討を行った。ホワイトボードを職員室に設置。苦にならない研修を。 ・すべての教員が授業をオープンにしようと、オープン授業に取り組んでいる。 ・「みんなの二小」を合言葉にした地域連携。縦割り活動に地域の方々に参加してもらうことで、管理職のみならず教員が地域の方々と繋がる。 ・重点課題の一つとして「心の居場所づくり」に取り組んでいる。「ほんわかルーム」という別室登校できる部屋を設けている。

③前年度と今年度の重点目標

	R５　重点目標	R４　重点目標
生駒小学校	①自ら学び、ともに考え合える子の育成 ②他人を思いやる温かい心をもつ子の育成 ③健康でたくましい子の育成 ④生駒を愛する子の育成	①自ら学び、ともに考え合える子の育成 ②他人を思いやる温かい心をもつ子の育成 ③健康でたくましい子の育成 ④生駒を愛する子の育成
生駒南小学校	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 ④その他の課題	①確かな学力の育成 ・基礎学力の定着と充実 ・分かる喜びと学ぶ意欲を高める授業 ②豊かな心の育成 ・規範意識・マナーの向上 ・あいさつ運動の取組 ③健やかな体の育成 ・体力づくり ・健康づくり ④その他の課題 ・地域との連携・協働
生駒北小学校	①小中一貫校としての特色を生かした指導体制の推進 ・小中教員の乗り入れ授業、小中合同体制による生徒指導・情報の共有 ・確かな学力 ②伝統文化に触れる学習の充実 ・茶筌の里としての地域性を生かす ・小学校での学習を基とし、各地の伝統文化に親しむ ③家庭や地域と共に歩む学校づくり ・地域教育力の活用	①小中一貫校としての特色を生かした指導体制の推進 ・小中教員の乗り入れ授業、小中合同体制による生徒指導・情報の共有 ・確かな学力 ②伝統文化に触れる学習の充実 ・茶筌の里としての地域性を生かす ・小学校での学習を基とし、各地の伝統文化に親しむ ③家庭や地域と共に歩む学校づくり ・地域教育力の活用

生駒台小学校	①子どもが輝く学校 ②挑戦する学校 ③信頼される学校	①子どもが輝く学校 ②挑戦する学校 ③信頼される学校
生駒東小学校	①あたたかな学校・学級づくりの推進 仲間に対するあたたかい気持ちを育む ②体力づくりの推進 苦手であっても運動やスポーツが楽しいと感じている ③主体的・対話的で深い学びの実現 主体的に学び、学んだことを活用している ④安全教育の推進 自他の安全を守る意識と行動力が身に付いている	①あたたかい学校・学級づくりの推進 仲間に対するあたたかい気持ちを育む ②体力づくりの推進 運動の楽しさを知り、進んで運動に取り組む子を育てる ③言語活動を通して、学び合う授業の工夫 自分の考えをもち表現できる子を育てる ④安全教育の推進 自他の安全を守る意識と行動力を身に付けさせる
真弓小学校	①【伝え合う力】あいさつや人とのかかわりを大切にする。 ②【あたたかい力】規範意識の向上と豊かな人間性の育成 ③【考える力】基礎基本の充実と柔軟な発想力 ④【体力つくりの推進】休み時間と体育学習を生かした体力の向上	①【伝え合う力】あいさつや人とのかかわりを大切にする。 ②【あたたかい力】規範意識の向上と豊かな人間性の育成 ③【考える力】基礎基本の充実と柔軟な発想力 ④【体力つくりの推進】
俵口小学校	①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導法の工夫に取り組む。 ②他者と交流しながら、考えを深める力を着実に育てる。 ③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 ④人権尊重の精神を基盤に、児童に関する課題を共有するとともに、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む。 ⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる。 ⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる。 ⑦話合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす。 ⑧集団でのかかわりの場を通して社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する。 ⑨「体つくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組を進める。	①考えをみがく 自分の考えを持つ子　考えをまとめ表現する子　目当てをもって考えを深める子 ②心をみがく ルールとマナーを守る子　自分や仲間を大切にする子　互いの違いを認め合う子 ③仲間とみがく みんなと話し合い解決する子　人とかかわる喜びを持つ子　みんなと進んで運動する子

鹿ノ台小学校	①課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ②地域と連携した協働活動の充実 ③全ての児童・生徒の心の居場所づくり	①規範意識の向上 ・規則や決まりを守る気持ちや正義感を育成する道徳教育の充実。 ・障害や不登校、外国籍等の多様性の正しい理解と支援。 ・保護者や SC、SSW、サポートセンター等と連携した問題行動への対応。 ②主体的・対話的で深い学びの推進 ・子ども同士の情報共有と意思疎通による協働的な学びの実現。 ・タブレット端末の活用による学習方法や学習内容の拡大と深化。 ・地域と連携した協働活動の推進。 ・感性や想像力を磨く読書教育の充実。
桜ヶ丘小学校	夢の実現に向かって努力し、共に学ぶ喜びを味わえる子の育成 －自立と共生－ ①心豊かな児童の育成 ②確かな学力を育てる指導 ③心身ともにたくましい児童の育成	夢の実現に向かって努力し、共に学ぶ喜びを味わえる子の育成 －自立と共生－ ①心豊かな児童の育成 ②確かな学力を育てる指導 ③心身ともにたくましい児童の育成
あすか野小学校	①豊かな心を育む指導 ②自ら学ぶ態度を育てる学習指導 ③たくましい心と体の育成 ④基本的生活習慣の定着	①豊かな心を育む指導 ②自ら学ぶ態度を育てる学習指導 ③たくましい心と体の育成 ④基本的生活習慣の定着
壱分小学校	①学力向上の推進 自分の思いや考えを進んで表現する子どもの育成 ②規範意識向上の推進 規律ある行動ができる子どもの育成 ③集団づくり、居場所づくりの推進 仲間とともに支え合い、ともに伸びる子どもの育成 ④体力向上の推進 楽しさや喜びを実感し、進んで運動に取り組む態度の育成 ⑤地域と共にある、開かれた学校づくり	①学力向上の推進 自分の思いや考えを進んで表現する子どもの育成 ②規範意識向上の推進 規律ある行動ができる子どもの育成 ③集団づくり、居場所づくりの推進 仲間とともに支え合い、ともに伸びる子どもの育成 ④体力向上の推進 楽しさや喜びを実感し、進んで運動に取り組む態度の育成
生駒南第二小学校	①心の居場所づくり ②あいさつをする ③すすんではたらく ④生きて働く知識・技能を高める ⑤出前授業や体験活動を通して学ぶ ⑥進んで本に親しむ ⑦楽しんで歌を歌う ⑧楽しんで体を動かす	①あいさつをする。 ②心の居場所づくり ③すすんではたらく ④生きて働く知識・技能を高める ⑤ICT の活用や体験を通じて深く学ぶ ⑥進んで本に親しむ ⑦楽しんで歌を歌う ⑧楽しんで体を動かす

３　中学校

①訪問日時並びに訪問者

生駒中学校	7/12	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、神澤委員、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、花山課長、松田主幹、小泉指導主事、金指導主事
生駒南中学校	5/11	若狭管理主事、原井教育長、吉尾委員、伊藤委員、鍬田部長、中田課長補佐、日高室長、金指導主事、野村指導主事
生駒北中学校	5/12	若狭管理主事、原井教育長、吉尾委員、伊藤委員、鍬田部長、花山課長、小泉指導主事、野村指導主事
緑ヶ丘中学校	6/15	若狭管理主事、原井教育長、伊藤委員、中川委員、神澤委員、吉尾委員、古島委員、飯島委員、鍬田部長、山本課長、花山課長、中田補佐、小泉指導主事、金指導主事
鹿ノ台中学校	5/12	若狭管理主事、原井教育長、吉尾委員、伊藤委員、鍬田部長、花山課長、小泉指導主事、野村指導主事
上中学校	6/30	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、伊藤委員、中川委員、神澤委員、山本課長、花山課長、日高室長、金指導主事、池下指導主事
光明中学校	6/16	若狭管理主事、原井教育長、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、鍬田部長、中田課長補佐、日高室長、松田主幹、野村指導主事、池下指導主事
大瀬中学校	5/24	若狭管理主事、原井教育長、鍬田部長、伊藤委員、中川委員、吉尾委員、中田課長補佐、日高室長、松田主幹、小泉指導主事、池下指導主事

②ヒアリング内容

生駒中学校	＜授業改革＞ ・校長がすべての教室を巡回するようにしている。 ・タブレットやモニタの活用も年々進んでいるかと思う。 ・小学校と比べるとなかなか進まないところもあるかと思うが若手の先生を中心に進めている。 ・総合学習や行事などで子どもたち中心に話をすすめられるように工夫している。 ＜地域協働＞ ・１１月に地域の方と子どもたちの合同の防災訓練を計画 ・市の防災安全課とも連携して内容を検討中。 ・ユネスコの申請で補助金も受けられるとのことで防災教育として申請中 ・ハザードマップの作成を勧めている。市教委から大きな地図を用意してもらった。生徒保護者へのアンケートを実施　地域からも意見を聞いて完成予定 ＜居場所づくり＞ ・本校で最も大切にしている。グランドデザインの土台 ・体の安全も大事だが、心の安全もしっかりと守っていきたい。 ・きめ細かく様子を把握する。 ・学校へ登校しづらい生徒には別室対応 ・別室では生徒の希望にそって別室からのオンライン・自由学習・学習ではなく教員との会話など　４，５名の生徒が利用。１日中いる生徒ばかりではない。午前中のみ、昼からの授業、給食だけ学級に入るなど多種多様な生徒に応じている。 ・登校刺激ばかりではなく、学校以外の居場所も含めて対応。学校が全てではないという意識を教員にも持たせている。 ・昨年度、30 日以上欠席　①7　②17　③15　規模的に多いと感じる。 ・不登校ならネット（フレキシスクール）の拠点校として教員を配置してもらい、本校の登録 4 名　生駒市内 7 名　2 学期以降の活動形態も変わってくるかと思う。 ＜課題＞ ・働き改革については進まない印象。人が増えないことには難しい。 ・スクールサポートスタッフなどの配置で一時よりは軽減か ・大きな課題は部活動。部活動のあり方については考えていかないといけない。先生方の部活動への意識も大きく変わってきている。若い先生方ほど今の部活の現状に疑問を感じている。 ・危機管理意識をしっかりと持つように教員へ常に声掛け。最悪を想定して行動するように。こんな発言をしたらこんなリスクが有る事を考えて発言するように。 ・先生方のいろいろな意見を聞きながら校長へも意見できるような組織づくりをしたい。言える雰囲気を作りたい。

生駒南中学校	・県の少人数加配を生かして２年４０人学級を少人数編成で行い、きめ細やかな指導を行っている。 ・生徒数１４３名の小規模校特有のメリットデメリットを兼ね備えている。 ・若手教員が多く、中堅教員が少ないため、OJT を行うことが難しい環境である。８割近くの教員が勤務３年程度。南地区の良き伝統を特性を検討・引き継ぎしていくことが課題である。教職員は熱心に生徒対応にあたっており、大きな問題等は起きていない。経験年数のある教員に校務の負担が行きがちのため、仕事の負担を少しずつ見直していく必要がある。そのため、今年度は運営委員会を活用した上で管理職主体で校務分掌を配当した。 ・生徒の様子は良いスタートを切っている。落ち着いた様子。 ・長期欠席者数が多い。受験を見越して、学級運営・環境を作っていくことが必要。 ・1・2 年の長期欠席者も今年度は頑張って登校している。長期欠席者の中にはなかなか登校できていない生徒もいるが、個に応じた対応を取っていく。 ・小規模校ならではのつながりの強さを生かして個に応じた生徒指導を行っていきたい。 ・学力の面を支えるためにも AI ドリルを活用 ・家庭学習の手引（南中）を作成予定、家庭での学習習慣定着を目指す。 【授業改善・地域協働・居場所づくりの３観点について】 ①授業改善（教員が意欲を持って働ける環境づくり、授業力の向上） 道徳の研究授業期間を継続して今年度も設ける。 教科間の垣根を越えた授業見学会期間の設定 学び合いの授業研修 外部人材や関係機関とのキャリア教育　いろいろな場所で学ぶことでいろいろな子どもたちが自己肯定感　有用感を育んでいける機会を作っていきたい。 教員の時間確保に向けて最終下校 17:30 に設定して教職員の校務に当たる時間を確保 校務の効率化・校務分掌の見直しを図る ②地域協働（南小中の一貫教育を充実させるため義務教育９年間を見据えた教育活動） ボランティアサポーターを募集し、南小と足並みをそろえていく 南中の地域クリーンアップ活動に南小高学年にも参加してもらい、地域のつながりを深める活動としていくことを目指す。 南小中による地域における学校への想いを交流する会を昨年度開いた。今年度も継続していく。 ③居場所づくり（徹底した生徒理解・一人ひとりに合った生徒指導と居場所づくり） 小規模校のため、別室の準備は難しいが教員と全生徒とのつながりをもつことで全職員が様々な生徒への対応ができるようにする。 制服検討委員会に生徒の参加を呼びかけ、小学校からの参加も検討している。 SC による研修

生駒北中学校	・地域学校協働本部の立ち上げを地域コーディネーターと相談をして進めていく。 ・特別支援学級生徒（医療的ケア等）の、細やかな支援・指導体制の確立と指導内容の充実を行う。 ・小規模校のため教員一人あたりの校務分掌の負担が大きい。職員の超過勤務解消へ向けて、意識改革を図る。 ・小中一貫校として、9 年間を見通した取り組みを行っている。中学校教員が小学校へ乗り入れ授業、小中合同体制による生徒指導・情報の共有を行っている。 ・「茶筅の里」としての地域性を生かし、作法体験・茶道体験の系統的な学習の充実を行っている。 ・教員が意欲をもって働ける環境づくり、授業交流や研修を行い、教員の授業力の工場を目指す。 ・小規模校の特性を生かし、全教職員が生徒とつながり、どの生徒でも対応できるような関係性を築くこと目指している。
緑ヶ丘中学校	・２０代、３０代が半数を占める教員構成。ベテランからミドルリーダーへの校務分掌の引き継ぎを進めている。 ・不登校生徒が各学年に。１年生は昨年度不登校傾向の生徒も頑張っているが、期末テストも控えこれから増えていかないように注視していきたい。 ・若手が多い分 ICT の活用は進んでいる。若手からベテランへの技術伝達。うまく融合させていくのが課題。 ・過去の隠し撮り事案を真摯に受け止め、スマホ講習を年に数回。命の教育にも力を入れている。 ・学校にない部活動の大会に出場したい生徒が増加。部活動指導員の活用によって対応している。 ・多忙の中でも情報共有の徹底。学年主任、生徒指導主任への報告→管理職への報告 ・主任級のポジションを若手に。ベテランがいるうちに引き継ぎ。１０年後の緑中のために。 ・教員の数が多いときから比べて１２名減。一方で部活動数は同じ状態が続いた。圧倒的顧問不足により、保護者会を重ね部活動の軽減に舵を取った。（廃部の方向３） ・不登校対応や特別な支援が必要な生徒への対応で、教員一人ひとりの持ち時間が過多である。 ・授業改善…まずは毎回の授業で小さな PDCA。一つの授業に学校の教育目標が入っていたかを振り返ろう。各教員教材作成には非常に熱心。ペア活動やグループ活動により意見を言い合う、人の意見を知る機会を増加させている。 ・系統だったキャリア教育。「仕事」を根幹においたキャリア教育。コロナで職場体験が中止に。オンラインを駆使しながら出前授業を実施。 ・地域連携（地域学校協働活動）…まずは子どもたちに関わっていただくことを重点に。地域の方から見守られている、育てられているという思いを子どもに持たせたい。花植えボランティア。家庭科実習の補助ボランティア。学期末の大掃除ボランティア。来れるときに楽しんできていただくことを大切に。中学生かわいいという声が多く出た。そうした声が次のボランティアの増加に。 ・今年度は地域の男性の力を借りたい→草刈りや図書館活動のボランティア。緑中協力隊と名付けて親しみやすく。 ・居場所づくり…学期に１回二者懇談実施。担任以外も話を聞くよという体制づくり。G ルームに必ず毎時間教員を配置。今年度は３名の生徒が常時利用。教室とオンラインでつながる生徒もいたり、自分で学習を進めていく生徒もいたりする。学校がしんどいところであるという思いを軽減させたい。養護教諭に話をしたがる子もおり、放課後にゆっくり対応していただくことも。

鹿ノ台中学校	・校務支援システムを活用した業務の効率化や職員会議等の資料をペーパーレス化等を図り、教職員一人ひとりがいきいきと子どもと向き合える職場づくりを目指している。 ・小規模校であるため、校務分掌等の負担が大きい。校務分掌表を見直し、分掌量の均一化を図る。 ・生徒のアンケート結果等から、読書活動の推進を進めている。その一環として、図書館司書と相談をしながら、図書室の環境を整備し、活用の工夫を行っている。 ・ベテランの教師が多い。ミドルリーダーの育成や、若手教員の育成等、教職員の資質向上を図る。 ・授業改善を目指し、授業観察ウィークを設定し、互見授業を行う。お互いに良い点・効果的な取り組みなどを交流し合い、各自の授業に取り入れ充実を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを推進するため、キャリア教育プランナーの活用を進める。情報モラル、SDGs など、タブレットを活用しながら取り組みたい。 ・一小一中の校区なので、小学校からの課題をそのまま抱えて入学してくることが多い。子どもの背景も多様化している。 ・スクールカウンセラーはいつも予約が埋まっている状況。
上中学校	・職員の構成が若返ってきて 30 代の教職員が増えてきている。 その中で授業改革を勧めていくために研究の中核として若手を配置するようにしている。 ・インクルーシブ教育　支援の必要な生徒のための研修をすすめていく。 ・エバンジェリストとして新着任の教員を配置し働き方改革として採点ソフトの検証を行っている。 ・深い学びにつながる学習状況を各教科ごとに検証 そのために第 1 学年の評価・評定の検討を進めている。 ・生徒会を中心に SDGs や新入生を迎える会など生徒が主体的に行動する活動が増えてきた。 ・上中サポーター活動として定期的に活動できるよう４月から今年度もスタート。 ・花いっぱい活動で花づくり町づくりコンテストで入賞 ・地域の人が返却しやすいような図書環境（返却ポストを設置） ・家庭科部の洋裁指導を依頼している。家庭科の授業を中心に授業のサポートもお願いしている。 ・地域と連携した協働活動（上中ゆっくりネット:学校に来にくい生徒の保護者会） 進路に向けた情報会を企画 ・ゆっくりネットに関わるため卒業生が中心となって関わりたいとの取り組みも有。 ・地域ボランティア部を設置して卒業生と一緒に取り組んでいきたい。 白庭台の自治会・キッチンカーイベントなど地域とのつながりをボランティア部を通じて行っていく予定。 ・二年生の長欠生徒が多い。フレキシスクールも活用 ・教室に入りにくい生徒に向けた E ルームの活用。オンライン授業を受けたり、テストを受けたりしている。

光明中学校	・前向きで意欲的な生徒が多い。幼い部分もある。挨拶をよくする。 ・部活動が熱心。様々な部活で県大会出場など良い成績を収めている。 ・職員構成の男女比、女性教員が少ない。若手教員が多い。30 代後半から 40 代の教員が中心となって引っ張ってくれている。和やかな職員間の雰囲気。若手の育成を管理職中心に進めていきたい。 ・大型モニターを使用した授業は多いが、ICT を活用した授業が少ないのが課題。 ・教職員の働き方改革を進める必要がある。超過勤務が半数以上。80 時間を超えた教員も 2 名。 ・地域とともにある学校づくりについて、学校運営協議会を中心に入ってきていただいているが、まだまだ進んでいない状況である。今後、地域の方と関わりを深めていきたい。 ・市教委との連携した授業を行っている。２年生ではオンラインキャリア教育、３年生では自己肯定感を持つことができるようなワークショップを検討している。 ・職員がロイロノートに限られた iPad をどのように活用していくか。採点ナビにより採点時間の大幅な削減に繋がっている。 ・地域との連携について中心となっていただいている方と学期はじめに相談を行っている。生駒台小学校との連携面を今後も検討していきたい。 ・地域学校協働本部の組織化を目指している。 ・すべての子どもの居場所作りとして、校内適応指導教室を開設している。また、オンライン授業の活用も行っている。教育相談週間を設けており、生徒に寄り添った取り組みを進めている。
大瀬中学校	・素直な子たち。メリハリをつけて切り替えて行動できる子が多い印象。 ・長期欠席生徒もいる。教師の声かけで傷つけてしまったなど反省する点もある。オンラインや別室で対応している。修学旅行は長欠生徒も数名参加できた。 ・見守りが必要な生徒がいる。メンタルのケアが必要。休み時間や部活動の時間も含めて、教師間での連携を取りながら。熱中症でなくなった生徒の妹が三年生に在籍している。 ・勤務時間が長くなっているので、働き方改革をグランドデザインにも掲げている。手を抜くのではなく、体を優先しながら改革を。体調不良の教員がいる。 ・年間３回校内で授業研、６月３年生、９月２年生、１０月１年生。大型モニタなどの ICT 機器を活用しながら、子どもたちが主体的に学べるように授業改革を進める。 ・６月１５日第１回運営協議会。それぞれの地域で様々な活動に取り組んでおられる。スクールサポーターとしてボランティアを募る。（花の手入れ、図書館の整備、家庭科のサポートなど）学習支援については、職員がまずは生徒に関わり、今後は地域の大学生などと連携を図れるようにしたい。 ・ホームページを通して積極的に発信を。 ・すべての子どもたちの居場所づくり。子どもたちの様子を常に状況共有。フレキシスクールについても保護者と連携しながら進めている。見守りが必要な生徒については学校全体で支援していく。

③前年度と今年度の重点目標

	R５　重点目標	R４　重点目標
生駒中学校	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業、魅力ある授業づくりの推進 ③きめ細やかな生徒指導の充実 ④人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携 ⑥組織力の向上	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業、魅力ある授業づくりの推進 ③生徒理解、きめ細やかな生徒指導の充実 ④命を大切にする心や人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携 ⑥組織力の向上

生駒南中学校	①わかる授業の構築 ②地域、保護者に信頼される学校づくりの推進 ③豊かな人間性（心）の育成 ④積極的、開発的な生徒指導の推進（いじめ・教育相談活動等） ⑤たくましい心身の育成	①わかる授業の構築 ②地域、保護者に信頼される学校づくりの推進 ③豊かな人間性（心）の育成 ④積極的、開発的な生徒指導の推進（いじめ・教育相談活動等） ⑤たくましい心身の育成
生駒北中学校	①小中一貫校としての特色を生かした指導体制の推進 ・小中教員の乗り入れ授業 ・確かな学力 ②伝統文化に触れる学習の充実 ・茶筌の里としての地域性を生かす ③家庭や地域と共に歩む学校づくり ・地域教育力の活用	①小中一貫校としての特色を生かした指導体制の推進 ・小中教員の乗り入れ授業 ・確かな学力 ②伝統文化に触れる学習の充実 ・茶筌の里としての地域性を生かす ③家庭や地域と共に歩む学校づくり ・地域教育力の活用
緑ヶ丘中学校	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業・魅力ある授業づくりの推進 ③生徒理解、きめ細やかな生徒指導の充実 ④命を大切にする心や人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携と協働 ⑥組織力の向上	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業・魅力ある授業づくりの推進 ③生徒理解、きめ細やかな生徒指導の充実 ④命を大切にする心や人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携と協働 ⑥組織力の向上
鹿ノ台中学校	①「主体的・対話的で深い学び」の推進 ②ICT を活用した授業づくり ③読書活動の推進 ④生徒の自尊感情の醸成 ⑤保護者・地域との連携	①「主体的・対話的で深い学び」の推進 ②ICT を活用した授業づくり ③生徒の自尊感情の醸成 ④保護者・地域との連携
上中学校	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③命の教育・人権教育の充実 ④あいさつの推進 ⑤たくましい心身が育つ学校づくりの推進 ⑥環境教育の推進 ⑦地域とともにある学校づくり	①教科指導の充実 授業力の向上、授業改善を図る ②人権教育の充実 仲間を尊重する仲間づくり、心が通い合うあいさつの推進 ③地域に開かれた学校づくり 地域で育つ・地域に生きる子どもたちの意識を変える
光明中学校	①人と人とのつながりを大切にする生徒の育成 ②自主的、自律的に学習する生徒の育成 ③夢の実現に向けて、粘り強く努力する生徒の育成	①人と人とのつながりを大切にする生徒の育成。 ②「わかる感動、発見できる喜び」に触れる授業等をとおして、豊かな知識だけでなく、自主的、自発的に学習する生徒の育成。 ③研ぎ澄まされた人権感覚・人権意識の育成、生命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など「豊かな心」の育成。

大瀬中学校	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業、魅力ある授業づくりの推進 ③生徒理解、きめ細やかな生徒指導の充実 ④命を大切にする心や人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携 ⑥組織力の向上 ⑦教職員の働き方改革の推進	①学校安全管理体制の確立 ②わかる授業、魅力ある授業づくりの推進 ③生徒理解、きめ細やかな生徒指導の充実 ④命を大切にする心や人権を尊重する教育の充実 ⑤保護者、地域との連携 ⑥組織力の向上

議案第２３号

令和５年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条に基づき、生駒市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（昭和６０年４月生駒市教育委員会規則第６号）第２条第５号の規定により、別冊のとおり提出する。

令和５年７月２４日提出

生駒市教育委員会

教育長　原　井　葉　子